

障がいのある人の雇用に取り組む

# 西陣織会館

(京都市上京区)

「京都はあとふる企業」です



【主な事業内容】

西陣織を中心とした商品の販売・展示

【障がいのある人の主な仕事】

座織りの実演、商品の品出し・整理、売場の接客など

## 【障がい者雇用の経緯】

10年以上前に京都ジョブパークからの実習受入れをきっかけに、障がいは誰にでも起こり得る身近な問題として捉え、社会的責任と職員一人ひとりの成長を目的に障がい者雇用の取り組みを開始しました。

今まで延べ3人の雇用と、体験実習は毎年受入れてきました。現在は1人ですが、売り場での品出し

や接客だけでなく、まゆから糸を引く「座織り」の実演や、得意な絵や趣味のカメラを活かした仕事も行っていきます。

## 【工夫していること】

まず短期の実習と長期の実習を行い、信頼関係を築くことを重視しています。就労に当たっては、京都ジョブパークや就労支援事業所などのサポートを得て、無理のない範囲で勤務時間を設定し、徐々に長くしています。職場で1人にならないように、就労前に

職員に障がいの特性を説明し、少しでも理解するように努めています。

また、日常的には、日毎に決まった職員が声掛けを行い相談に乗ります。定期的に面談も行っています。

配慮は必要ですが、仕事への取り組み姿勢は、他の職員と同様の指導をしています。

## 【Sさんに聞きました】

就労して3年目です。成長に伴い、コミュニケーションが苦手な、忘れ物が多いなど、自分は他の人と違う特性があると思うようになりました。大学生の時に「生きていく上で自分には周りの人々の理解が必要。それには自分自身を知り発信することが必要」と思い、自ら受診し、発達障がいと診断されました。

京都ジョブパークの紹介で実習を受けました。働くのは初めてでしたが、サポートもあり、自分の接客で外国人観光客が商品を買って下さった時は、嬉しくてやっていけそうと感じました。

実際に働くと緊張感が強く、覚えられない、優先順位が分からない自分に気付き、時間を掛けて繰り返し教えてもらう、優先順位を具体的に指示してもらうことなどで、パニックにならず、徐々に慣れてきました。

また、絵を描くのが得意であることをアピールして、商品のポップなどの作成やオンラインストアの写真の編集もさせてもらっています。手織体験のインストラクターを目指して、今勉強しています。



令和3年 12月取材